

一緒につるしびな作ろう

ークショップを開く。紙コップやマスキングテープを使って楽しく手軽に作れるのが特徴で「3月の桃の節句を明るい気持ちで迎えられよう応援したい」と意気込む。(安部晃将)

がんばろう岡山!
西日本豪雨

西日本豪雨でひな人形を失った倉敷市真備町地区の子どもたちを励まそうと、川崎医療福祉大(同市松島)医療福祉デザイン学科の学生有志が2月2日、同町地区でつるしびなの制作ワ

川崎医福大生有志 真備町被災の児童ら招待



ワークショップで作るつるしびなを手に参加を呼び掛ける学生たち

真備町地区在住の同大 学びを生かして地域に貢献から「大切にしたい 献できないかと企画。仮たひな人形が多くのご家庭 設住宅などで暮らす世帯で流された」と聞いたと、が多いことを踏まえ、飾3年生約30人が、日頃の際に場所を取らず、持

来月2日「心のケアに」イベント

ち運びが簡単にできる つるしびなを題材に選んだ。 グループの代表を務める3年 椋木太一さん

試飲用の小型紙コップ2個を内裏ひなに見立て、学生らがアイデアを出し合ってデザインした着物や扇のシールで装飾。顔の表情をペンで描き、それぞれ毛糸を通して支え木に結び付けた後、男びなと女びなの間にも毛糸を垂らして折り鶴などをあしらって完成させる。

着物のシールは、和を感じさせる紅白の梅やポップなドットの柄を施したものなど計約20種。毛糸に飾りを固定するマスキングテープも用意し、自分だけのオリジナル作品がで

きるようにしている。

場が十分になく寂しい思いをしている子どもが多いと聞いている。

ひな作りが楽しい思い出となり、心のケアにつながればうれしい」と話す。

ワークショップは真備保健福祉会館(同市真備町箭田)で午後1時半〜3時に開催。対象は4歳以上、小学生以下の子ともと保護者で定員30組(小学生は個人参加も可)。無料。31日までに同館内の臨時真備児童館(086-697-0083)へ電話で申し込む。



着物のシールなどを使って制作したつるしびなのサンプル